

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	010 -	事業名	平和行政事業			担当部課	総務部行政課			
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち				会計区分	一般会計 予算区分(款 - 項 - 目)			
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～								
	第6次総合計画・基本目標	✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち				2-1-1 一般管理費				
	法定受託事務の有無	-								
	その他(関係計画、要綱等)	✓ 長久手市平和事業推進委員会設置要綱								
	事業開始の背景、経緯等	・平成26年9月30日に非核平和都市宣言を行ったことをきっかけに、非核平和都市にふさわしい取組をすすめている。 ・平成28年5月31日に長久手市平和事業推進委員会を設置した。								
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ・平和事業に尽力するための啓発、催事等を行う。								
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) ・市民(市民の平和に対する意識)								
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) ・市民が主体となり、戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝承していけるように後方支援を行う。								
	事業を構成する事務事業(B票)	① 平和行政事業	改善・見直し	④						
	②			⑤						
	③			⑥						
コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)		
	事業費(A)	千円	予算	1,523	2,871	1,315	1,234	1,254		
			決算	1,408	2,777	1,178	1,086			
	人件費(B)	千円	決算	5,041	3,743	3,866	1,431			
総コスト(A)+(B)	千円	決算	6,449	6,520	5,044	2,517				
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)		
	A 原爆写真パネル展の観覧者数	人	目標	100	100	500	500	500		
			実績	100	564	570	453			
	B		目標							
	C		目標							
	C		実績							
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A パネル展示の観覧者の増減から、市民の平和行政に関する関心度の高さが判断できる。 B C										
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・非核平和都市宣言をする市町村が増加している(県内では、平成30年6月に設楽町)。								
	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・目標を下回った。								
評価	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) ・過去から展示内容に大きな変更をしていないので、展示内容を再検討する必要がある。								
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) ・戦争を経験した世代が高齢化しており、今後どのように戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継いでいくのか検討する必要がある。								
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ・若い世代も参加してもらえるような工夫を行う。								
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 2021年(平和事業推進委員会設立から5年後)までに、若い世代にも参加してもらう。								

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・戦没者追悼事業と平和行政事業の連携を進めてください。 ・広島体験学習の必要性について、検討してください。
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	平和行政事業		担当部課	総務部行政課	決算書ページ	—
事務事業名	①	平和行政事業	予算区分	2-1-1 一般管理費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成27年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) <ul style="list-style-type: none"> 市民を対象 原爆写真パネル展、語り部による戦争体験を聴く集い及び中学生広島平和体験学習事業を年1回、終戦記念日前後に実施している。 横断幕による啓発を実施している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) <ul style="list-style-type: none"> 戦争の悲惨さや平和の尊さを後世に語り継ぐことで、市民の平和に対する意識の醸成を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	1,523	2,871	1,315	1,234	1,254
		決算	1,408	2,777	1,178	1,086	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1) 広島平和体験学習事業委託						976	千円
(2) 平和事業推進委員会報償金						47	千円
(3) 特別旅費						26	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
語り部の参加者数	人	見込	—	80	80	100	100
		実績	—	134	138	139	
原爆写真パネル展の観覧者数	人	見込	100	100	500	500	500
		実績	100	564	570	453	
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年8月11日、12日 語り部による戦争体験を聞く集い 平成30年8月7日～12日 原爆写真ポスター展 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

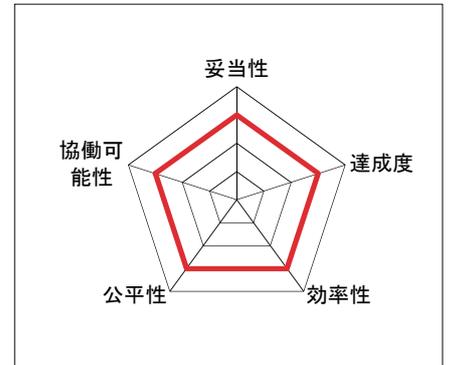
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
<ul style="list-style-type: none"> 非核平和都市宣言をきっかけに、市民の思いを尊重した事業の取組を推進していく。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
1,234 千円 1,254 千円 20 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
<ul style="list-style-type: none"> 前年度【今後の方向性】 現状維持 前年度【コメント】 語り部が減っていくことが予想されるため、新たな語り部の募集を行う。 語り部が高齢化しているため、ビデオ撮影などでの継承を検討する。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
<ul style="list-style-type: none"> 語り部の募集を行い、2人の応募があった。 語り部による戦争体験を聞く集いの動画撮影を行い、フェイスブックにアップした。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	—	—	—	10
実績	—	—	9	
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
<ul style="list-style-type: none"> 語り部として市民の方に参加いただいた。 語り部や平和事業推進委員が高齢化しており、協働で取り組むことが難しくなっている。 				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
<ul style="list-style-type: none"> 語り部として新たに2人の市民に参加していただいた。 戦争資料を市民の方から借りて展示した。 ポスター展の準備、片付けに市民の方に手伝っていただいた。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
<ul style="list-style-type: none"> 平和事業推進委員が高齢化しているため、新たな委員の募集を検討する。 語り部が高齢化しているため、戦争体験を語り継ぐ方法について検討する。

7. 今後の方向性

改善・見直し